

# 「禪の国際化と私の役割り」

## ——特にアメリカに於ける禪の立場と私の役割り——

大本山総持寺祖院 村 畑 亮 一

昨年、北米羅府の禪宗寺が創立六十五年を迎えた。アメリカに禪が根をおろしてから六十五年が経った訳である。達磨大師が印度より中国へ禪を伝えてから千五百年。さらに高祖道元禪師が中国より我国へ正伝の仏法を伝えられてから八百年近い歳月が流れている。その深い長い歴史に比ぶれば、アメリカの禪はやつと今、黎明期に入ったばかりと言えるかもしれない。

考うるに、彼らの大多数はキリスト教徒である。幼い頃に洗礼を受け、神の教えを受け育つて来た人々である。つまり、絶対的な神への「信」

の宗教の下で生きて来た人々である。「信」という事では、キリスト教は最高の宗教であるという人もある。

山田霊林師は、『禪とキリスト教』の中でイエスが十字架にかけられた際に残した一句「神は私を見捨てたまひしか」をひいて、この時にイエスは、自分の運命を黙って見つめる神の姿を見、改めて自己の信心を確立したのではないかと述べられている。私自身、何故キリスト教の信者が、自分らの教祖の、かくも残酷なる姿である十字架を、宗教の象徴とせねばならないの

海外派遣僧の辞令を渡される村畑氏



かという疑問は常々抱いていたが、これは山田  
霊林師の言われるように、「信」の象徴なのであ  
る。誰もがいつかはぶつかるとであろう、神への  
不信心。それを超えた処に絶対的な「信」があ  
るということのあかしなのである。まさにキリ  
スト教は、神への「信」の宗教である。

そうした中で生活してきた彼らが、何故キリ  
スト教とは対照的な仏教に傾倒してきたのであ  
ろうか。釈尊の教えは、他に依る事なく自己に  
依ることである。絶対的なのは、他ではなく、  
よくととのえし己れなのである。

次に仏教は、「苦」を観ずる宗教である。最初  
にこの世は苦に満ちているということを見きわ  
める。いわばマイナスからの出発である。そう  
言った意味では、キリスト教の「世界は美しい」  
ということとは対照的である。しかし、マイナ  
スからの出発、底辺からの出発故に、そこから  
はもう落ちようがない。向上するのみである。

私の教化研修所時代の同期であり、現在禅宗寺で活躍中の黒柳博仁師のアメリカに於ける半年間の研修レポートには、前述したようなアメリカの参禅者の生々しい声が聞かれる。彼らは皆、切なる苦悩を持っている。その解決の糸口を坐禅に見出し飛びついたのである。それは発心と言っても過言ではないだろう。発心の故の坐禅であるから、彼らは何らかの道（開設へ向かうヒント）を得るのである。彼らが人生に迷い、疑問を抱き、坐禅でもしてみようかと思つた時、すでに己れの仏性の呼びかけに応じているのである。坐禅は仏が仏を行ずることである。「ホトケ」とは彼らにとつては抽象的かもしれないが、つまり、不完全（本来完全であるのに、それに気付かないという意味での不完全）な私（私）が、完全（ホトケ）に憧れ行ずることである。憧れというのは、目的とするということではない。これもまた、本来の自己からの呼びかけである。

金沢の大乘寺の板橋興宗老師に次の言葉がある。

「私たちは仏教者である前に一個の人間である。坐禅人である前に、大宇宙に息づく一人の自然人である。その人間が、人間らしくまともに生きる教えが仏教である。その内容を直接に実証するのを坐禅という。」

これはすなわち、現代の宗侶への警鐘である。つまり、釈尊や高祖の教理を尊ぶあまり、宗門の坐禅が特別のものであるかのように考えられているのである。坐禅は、理屈ではない。教理は重要ではあるが、それよりもまず座ることである。マラソンランナーが、コースのデータを頭に入れることよりも、まずそこを走って体で覚えこむのと同じである。教理は自分がやっている事への意義づけでよいと思う。そうしないと頭の中で坐禅というものを理解し、実践に向かわなくなるであろう。更に坐禅は特別なもの



ではない。普遍的なものである。一切衆生が仏性ならば、国境、人種に関係なく、普く仏を行ずるべきであらうし、仏の教えに触れればそうせずにはおれないだろう。

その実証がアメリカに於ける禪の普及である。先に私は、アメリカに於ける禪が黎明期であると述べた。黎明期であるからこそ若木が天地いっぱいに拡がるような勢いがあると思う。私はそういう所に飛び込んで、彼らとともに坐り、彼らとともに仏道を学んでゆきたい。

繰り返しになるが、我々は本来、仏であるが故に、常にその真の自己に戻ろうとするはたらきがある。問題はそれを意識するかしないかである。そこに気付いて参禅に来た人々に道を指し示す事が私の役割りである。もちろん釈尊や高祖さまに代わるものではないにしろ、仏祖の真の教えを説いてゆくのが私の務めであると思っている。